

日韓両言語における断りのストラテジー —言語表現の違いとストラテジー・シフトを中心に—

任 炫 樹

1 はじめに

本稿の目的は、日本語と韓国語における断り談話を構成する意味公式 (Semantic formulas)¹を用いて、両言語間の断りストラテジーの異同を明らかにすることにある。断り談話を意味公式の観点から分析した先行研究としてはBeebeら (1990)をはじめ、藤森 (1994)、金 (1999)、伊藤 (2002) が挙げられる。本稿では、それぞれの言語において好まれる意味公式と言語表現について考察するとともに、従来の研究では注目されてこなかった、1回目の断りと2回目の断りとの間のストラテジー・シフト、およびストラテジー・シフトとウチ・ソト・ヨソとの関連を明らかにする。

2 調査方法

筆者は2001年の8月から11月にわたって、人物と状況を設定してロールプレイ調査を行った。インフォーマントはモノリンガルである日本語母語話者30人 (男女15人ずつ、名古屋大学の学部生・大学院生) と韓国語母語話者30人 (男女15人ずつ、韓国中央大学校と延世大学校の学部生・大学院生) である。採集された言語は日本語と韓国語であり、日本語母語話者のデータは日本で収集し、韓国語母語話者のデータは韓国で収集した。1人当たりのロールプレイ所要時間は約20分から40分かかった。なお、インフォーマントの年齢は満19才～27才と限定している。日本語母語話者の応答を導く働きかけの役割 (申し出る者) は日本人女性2人²が担当し、韓国語母語話者の応答を導く働きかけの役割は筆者 (女性) が担当した。働きかける者にはロールカードの内容に基づき、親 (以下、ウチⅠ)、親しい友達 (以下、ウチⅡ)、指導教官 (以下、ソト)、セールスマン (以下、ヨ

ソ) の役を演じてもらった³。インフォーマントには、申し出の内容が変わるたびに演じる人物を知らせるカードを提示した。働きかける者とインフォーマントに渡されたロールカードの内容は、以下の通りである。

表 1 食事の勧誘 (ウチⅠ・ウチⅡ・ソト)

働きかける者のカード	あなたは〇〇さんの____です。〇〇さんを食事に誘います。一度断られても、お金は自分が出すから一緒に行こうとまた誘います。
インフォーマントのカード	あなたは、一緒にご飯を食べに行かないかと____から誘われます。あなたは、まだ食事をすましていないし、特に用事があるわけでもありませんが、一緒に行きたくありません。

(ロールカードの〇〇にはインフォーマントの名前が入り、____には、親・親しい同級生・指導教官が入る。以下、表 2 も同様である。)

表 2 翻訳の勧め (ウチⅠ・ウチⅡ・ソト)

働きかける者のカード	あなたは〇〇さんの____です。アルバイトを探している〇〇さんのために、A4用紙一枚千円の翻訳の仕事があるからしてみないかと勧めます。一度断られても、家でできるからといって再度勧めます。
インフォーマントのカード	アルバイトを探しているあなたは、____から翻訳の仕事勧められます。しかしあなたは、その仕事はできないわけではないが、条件がよくないと感じます。家でできるからと言われても、それを引き受けたくありません。

表 3 英会話カセット・テープ購入の勧誘 (ヨソ)

働きかける者のカード	あなたはセールスマンです。英会話のカセットテープを買わないかと通りすがりの人に勧めます。一度断られても、それが最新式の学習テープだからと言って購入を再度勧めます。
インフォーマントのカード	あなたは道で出会ったセールスマンから英会話テープを購入するように勧められます。しかしあなたは、英会話のカセットテープを家に持っています。だから、買う必要はないと感じています。最新式の学習テープだと言われても、買う気がしません。

3 両言語間のストラテジーの差異

ここでは、断り談話を構成する意味公式が両言語にどのように現れているかについて、全般的な傾向を探る。まず、断り談話を構成する意味公式の使用頻度を考察する。次に、両言語における{詫び}を示す表現と{理由}を示す表現を取り上げる。

3.1 意味公式の種類および使用頻度

意味公式は {ためらい} {理由} {結論} {情報要求} {関係修復} {代案} {詫び} {共感表明} {間接表明} {条件} {遺憾表明} {その他} {承諾} の13項目に分類した⁴。下に、意味公式の種類及び意味機能についてまとめておく。

表 4 意味公式の分類

意味公式	意味機能	例
{ためらい}	断り行為のワン・クッション、シグナル	あーそうですね/응—글쎄요—
{理由}	相手の意に添えないことに対する状況説明	忙しいから/약속 있는 데
{結論}	断りの直接的表明	行けない・無理/안 돼·싫어
{情報要求}	相手の発話内容の確認、付加説明の要求	翻訳ですか?/번역이요?
{関係修復}	相手との関係を維持したい旨の消極的な働きかけ	また今度 /나중에 같이 먹자.
{代案}	相手との関係を維持するための積極的な働きかけ	他の子にあたってみてください/ 잘하는 사람을 소개시켜드리죠
{詫び}	相手の意に添えないことに対する謝罪	すみません/죄송합니다
{共感表明}	ポジティブな見せかけ	行きたい気持ちは山々ですが/ 저도 가고 싶은데요
{間接表明}	明確な意思表明の回避	ちょっと/그건 좀 그렇네요
{条件}	断りの担保	条件がよかったらやるんだけど/ 십만원이면 한다
{遺憾表明}	ネガティブな見せかけ	残念ですね/아우 아까워 어떡해
{承諾}	相手の意向の受け入れ	いいよ/네
{その他}	上記に該当しないもの	私が変な翻訳したらどうするの? ·ありがとう/내가 언제 그런 거 해달라고 그랬어?·감사합니다

ここで、意味公式の数え方について説明しておく。1つのターン⁵に同じ種類の意味公式が複数で出現する場合は、各々を1つの意味公式として認めた。ただし、「無理です無理です」のように、同じ表現が1つのターンに重複されて現れる場合は、まとめて1つの意味公式とした。なお、{ためらい} は断り表現の前置きとして現れる場合だけをさす⁶。

以上のような方法を踏まえて日韓の意味公式の使用頻度を調べた結果、次のような結果が得られた。

表 5 意味公式の使用内訳

	ためらい	理由	結論	情報要求	関係修復	代案	詫び	共感表明	間接表明	条件	遺憾表明	その他	合計
日本語	303 29.9	257 25.3	199 19.6	75 7.4	32 3.2	25 2.5	54 5.3	34 3.4	12 1.2	8 0.8	2 0.2	13 1.3	1014 100%
韓国語	234 23.5	321 32.2	176 17.7	43 4.3	11 1.1	87 8.7	28 2.8	33 3.3	10 1.0	5 0.5	11 1.1	38 3.8	997 100%

断り談話を構成する意味公式の使用率を見てみると、両言語ともに、{ためらい} {理由} {結論} の3つが主に使われている。この調査結果が上記の先行研究と大きく異なるのは、{ためらい} の使用にある。意味公式から断り表現を分析した先行研究には、断りの主要ストラテジーとして {理由} {結論} {詫び} が取り上げられており、{ためらい} に注意を払っているものはないと言っても過言ではない。先行研究の調査方法は、いずれも談話完成テスト (Discourse Completion Test) を用いているため、話し言葉によく出現する {ためらい} の収集が困難だったからであると考えられる。

表 5 から次の 3 点が指摘できる。

- (1) 断り談話の主要ストラテジーは、両言語ともに {ためらい} {理由} {結論} である。{結論} は両言語間に 1.9% の差しか見られないが、{ためらい} は日本語が韓国語より 6.4% 多く、{理由} は韓国語が日本語より 6.9% 多い。
- (2) 相手に情報をもとめて断るストラテジーは、韓国語より日本語のほうに多く見られる。
- (3) {関係修復} {代案} {詫び} の使用頻度は両言語間に差が認められる。相手の意を断ることから生じた気まずさを緩和するために、日本語では {関係修復} {詫び} が、韓国語では {代案} が好まれる。

3.2 言語表現の差異

3.2.1 詫びを示す際の差異

相手の申し出を断ることによって生じた気まずさを軽減するために、「すみません」「ごめんなさい」などのような詫び表現を使う場合がある。表5によると詫び表現は日本語に54回(5.3%)、韓国語に28回(2.8%)見られ、両言語における詫び表現の使用率にはいくぶん差が見られる。使用率だけではなく、相手に詫びる気持ちを示す表現において両言語の間には差が見られる⁷。両言語の詫び表現にあたると考えられる例を下に示す。

(例1)

JM04: あー いいですね でもすいません 今日ちよっと急用があつて家に戻らなければいけないので 今度ぜひお願いします。 ⇒ {ためらい} {共感表明} {詫び} {理由} {関係維持}

(例2)

① KM01: 번역아르바이트는 저에게 무리인것 같구요 친구한번 찾아 볼게요 말씀드릴게요 (翻訳アルバイトは僕には無理でして 友達の中でできる子がいるかどうかあたってみてからご報告します。) ⇒ {結論} {代案}

② KF15: 아ー 안타깝네요 다음에 맛있는 거 사주세요. (아ー 残念ですね また今度おいしい物奢ってください) ⇒ {ためらい} {遺憾表明} {関係維持}

相手に申し訳ないという気持ちを伝える際に、日本語の場合は、例1のように「申し訳ありません」「すみません」などのような定型表現が使われる。一方、韓国語の場合は、定型表現もちろん使われるが、そこから逸脱した詫び表現も好まれて使われる。例2における①は{代案}を、②は{遺憾表明}を示している。これらの表現は相手に謝る直接的な{詫び}表現ではないが、いずれも相手に対して申し訳ない気持ちを示していると考えられる。定型的な詫び表現を用いる日本語と、表面的には詫びが示されなくても、積極的で具体的な代案提示や残念な気持ちを{詫び}の代わ

りに使う韓国語との相違は大きいと言えよう。

3.2.2 理由を示す際の差異

普通人々は、相手の意に添えない理由を示す際、「今はちょっと時間が
ないんで…」のように現在おかれている自分の状況を説明しようとする。
しかし、今回の韓国語の例には現在の状況説明から逸脱した表現が多く見
られた。例えば、韓国語には過去の出来事から話を進めたり、過去と現在
を結ぶ挿入句「너도 알다시피 (君も知っている通り)」を入れて状況説
明をする表現がしばしば見られる。ここでは、これらを李 (2000) の「物
語」という用語にならって「物語形式」とよぶことにする⁸。このような
物語形式は、日本語には1例しか見られなかったのに対して、韓国語には
23例も見られた、まず、日本語の例を見てみよう。

(例3)

H: 従来の 従来のテープとは違って (え) 本当に (ええ) 絶対お役に立てると思
うんですけど…

1 ⇒ JF10: あーで一やっぱり買ったんですけども一なかなか自分でもやる時間が
ないんで一今ちょっともったいないような状態になってるんで 新し
いのをまた買うというのも ちょっと無理なんで一申し訳ないんです
けれども {笑い} ちょっと買えません。⇒ {ためらい} {理由} {結論}
{詫び} {結論}

(例4)

1 ⇒ KF01: 야 남의 집 가 봐 맛있는 거 주지 돈 주지 번역은 안돼 너
나 알잖아 의외로 꼼꼼해서 다 찾아가지구 앉아가지구 남들 1시간
걸리는 거 3시간 걸리는 거 나 알잖아 야 다른 애들 주고 나는 얼
른 다른 아르바이트 소개시켜줘 알았지?

(○○ちゃん 人の家に行ってみて ご馳走になるでしょう 家庭教
師代もらえるでしょう 翻訳はだめよ あなた 私のことよく知って
いるじゃない 見かけによらずデリケートで普通の人が1時間ぐらい

かかるのが 私は3時間ぐらいかかるってこと 知ってるでしょ
う？ ○○ちゃん これは他の子にまわして 私には他のアルバイト
紹介してよ 分かった？）⇒ {理由} {結論} {理由} {代案}

例3におけるJF10は、過去の出来事を持ち出して、話を進めている。これは、自分の経験を基にした合理的な断りのストラテジーになる。このような類はある程度の丁寧さを保ちながら、相手の突っ込みを未然に防げるストラテジーであると考えられる。このようなストラテジーが韓国語には10例、日本語には1例見られた⁹。一方、例4のKF01は過去と現在を繋ぐ時間的な連結点の役割をする「너도 알다시피(君も知っている通り)」というワン・クッションを入れて断り談話を展開して行く。このような例が韓国語には13例も見られたが、日本語にはまったく見られなかった。過去の出来事から話を進める形式と過去と現在の連結点の役割をする「너도 알다시피(君も知っている通り)」という挿入句を入れて断り談話を展開するストラテジーに頻度差が見られるのは、両言語の理由を示す言語表現ストラテジーの相違を意味する¹⁰。

4 ストラテジー・シフト

ロールプレイは各々、2回ずつの申し出で構成されており、それに対する応答も2回ずつ行われた。しかし、無理に断りを求めているので、1回目か2回目の申し出で承諾する場合¹¹もあれば、相手に新しい情報（もしくは情報確認）を求めてターンの数が多くなる場合もあった。ターンの数が多くなった場合には、情報を求めているターンから、断りの旨が明確に示される最初のターンまでを1回目の断りとする。そして、1回目の断り以降から断り行為を締めくくるターンまでを2回目の断りとする。

4.1 日本語における1回目の断りと2回目の断り

日本語における1回目の言語行動と2回目の言語行動とを比較した研究に熊井（1992）と森山（1990）がある。熊井は日本人学生と

留学生の依頼行動を比較している。それによれば、一度断られたあとでもう一度依頼する場合、日本人学生のほうが新たな情報提供により、依頼の妥当性を効果的に伝えているのに対し、留学生は、要求表現を繰り返すだけで、十分な情報提供を行わないことがあるという。森山は、断りの方略を「嫌型」「嘘型」「延期型」「ごまかし型」に分け、大学生を対象にアンケート調査を行っている。森山は、一度断ったあとでもう一度断る場合に、男子学生の回答では率直に嫌だという「嫌型」が増えたことに対して、女子の回答では都合がつかないという「嘘型」が増えたと報告している。これらの研究はいずれも、1回目の言語行動ストラテジーと2回目の言語行動ストラテジーとの間に差があることを示唆している。

本節では、熊井と森山とは異なる方法で、1回目の申し出を断るストラテジーと2回目の申し出を断るストラテジーとを比較・検討する。全体的な意味公式数は1回目の断り例から544個、2回目の断り例から470個得られた。分析の結果を図1に示す。

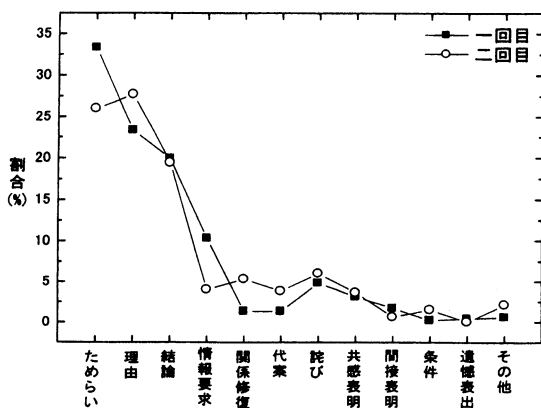


図1 日本語における1回目と2回目の断り

表6と図1から次のことが分かる。

- (1) 1回目に比べ、2回目の断りストラテジーのほうが、{ためらい}{情報要求}の使用頻度が低い(ためらいは59回(7.3%)、

情報要求は37回(6.3%)減)。

- (2) 1回目に比べ、2回目の断りストラテジーのほうが、{理由}{関係修

復} {代案} {詫び} の使用頻度が高い (理由は 3 回 (4.4%)、関係修復は 18 回 (4%)、代案提示は 11 回 (2.5%)、詫びは 2 回 (1.2%) 増)。

(3) {結論} の場合は、ストラテジー・シフトがあまり見られない (17 回 (0.5%) の減)。

以下の例 5 から 1 回目の断りと 2 回目の断りととの間のストラテジー・シフトについて見てみる。

(例 5)

H: 今アルバイトしてくれる人を探しているんだけど それが A 4 用紙千円の翻訳の仕事なんだけど ○○君やってもらえないかな。

1⇒JM11: うんー###そうですね<笑い> ちょっと暇があったらいいんですけど<呼吸>###それはいつまでに返事しなきゃいけないですかね。⇒
{ためらい} {条件} {情報要求}

H: できれば今一お願いしたいんですけど…

2⇒JM11: #だったらちょっと今は返事しかけられないんで 他あたってほしいんですけど…⇒ {理由} {代案}

H: でも内容簡単だし家ですぐできると思うけど…

3⇒JM11: いやあんまりその英語得意じゃないんで<笑い>すみませんけど<笑い>また今度お願いします。⇒ {理由} {詫び} {関係修復}

ここで JM11 は、ターン 1 とターン 2 にわたる 1 回目の断りにおいては、{ためらい} {条件} {情報要求} {理由} {代案} の 5 つの意味公式を、2 回目の断りにおいては、{理由} {詫び} {関係修復} の 3 つの意味公式を使用している。ターン 1 で使われた {ためらい} と {情報要求} は、ターン 2 の 1 回目の断りを成立させるための手がかりとして用いられたと考えられる。{ためらい} と {情報要求} が 1 回目比べ、2 回目の断りを行う際にその使用頻度が減るのはそのためであろう。1 回目の断りに失敗し、2 回目の断りを表明する際に、新たな {理由} を付け加えたり、相手の意に添えないことに対して謝ったり、円滑な人間関係を保つために {関

係修復}を使ったりする傾向がある。このように、ストラテジー・シフトが生じるのは、1回目の断りに比べ、2回目の断りのほうでより婉曲的な断り方が好まれるからであろう。

4.2 韓国語における1回目の断りと2回目の断り

韓国語における1回目の言語行動ストラテジーと2回目の言語行動ストラテジーとの差を調べた研究は、筆者の知る限り、存在しない。韓国語における1回目の断りストラテジーと2回目の断りストラテジーを意味公式から分析したところ、次のような結果が得られた。

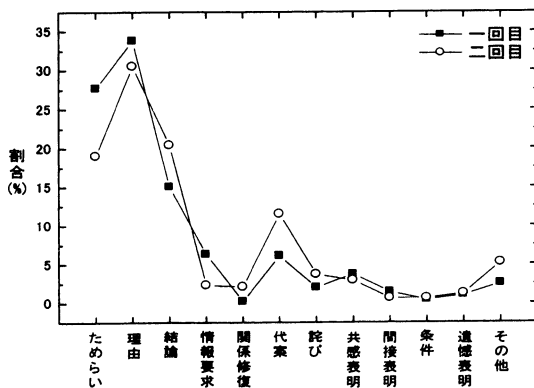


図2 韓国語における1回目と2回目の断り

図2から次のことが分かる。

- (1) 1回目に比べ、2回目の断りストラテジーのほうで、{ためらい}{理由}{情報要求}の使用頻度が低い(ためらいは50回(8.7

%)、理由は25回(3.3%)、情報要求は21回(4%)の減)。

- (2) 1回目に比べ、2回目の断りストラテジーのほうで、{結論}{関係修復}{代案}{詫び}の使用頻度が高い(結論は22回(5.4%)、関係修復は9回(1.9%)、代案は25回(5.4%)、詫びは8回(1.7%)の増)。

両言語ともに、2回目の断りでは、断りのシグナルとも言える{ためらい}{情報要求}は少なくなるが、その代わりに{関係修復}{代案}{詫び}の使用は高くなる傾向がある。しかし、両言語には相違点も見られる。韓

国語が日本語と大きく異なるのは、{結論}の使用にある。日本語の場合は、2回目の断りを表明する際に、{結論}を避けて新たな{理由}を付け加える傾向がある。これに対して韓国語の場合は、2回目の断りを表明する際に、{理由}より{結論}を示す比率が高くなる。このような傾向は次の例6にも見られる。

(例6)

H: ○○양 식사했어요? 식사하러 가지.

(H: ○○食事 まだだったら 一緒にどうかな?)

1⇒KF13: .아-저 약속이 있어가자구요.

(1⇒KF13: あーあの 約束がありましてですね。) ⇒ {ためらい} {理由}

H: 네가 한턱낼게 가지. (H: 奢るわ。)

2⇒KF13: 근데 거절하기 힘든 약속이어서 # 오늘 안되겠네요.

(2⇒KF13: それが断りにくい約束でして#今日は駄目ですね。) ⇒ {理由} {結論}

KF13は1回目の断りにおいては{ためらい}{理由}を示していて、2回目の断りにおいては{理由}{結論}を示している。KF13は、1回目の断りのときは、{結論}を避けて{ためらい}と{理由}を使った婉曲な断り方を選択している。しかし、それが成立しなかったため、2回目の断りのときは{結論}を含めたより明確な断り方を選択したと考えられる。韓国語における2回目の断りの戦略は1回目の場合より明確な断り方が好まれる傾向がある。

とは言え、韓国語においても、日本語のように2回目の断りを行う際には相手との円満な人間関係維持に必要とされる{関係修復}{代案}{詫び}が増える傾向がある。韓国語の2回目の断りでは、明確な断り表現と婉曲的な表現とが共存する戦略にシフトされ、丁寧さが調節されている。

5 ウチ・ソト・ヨソによるストラテジーの差

5.1 日本語のウチ・ソト・ヨソによる差異

日本語の断り談話に見られる意味公式をウチⅠ・ウチⅡ・ソト・ヨソの4つのカテゴリーに分けて考察を行い、表6のような結果が得られた。表6は、それぞれのカテゴリー別の意味公式における使用頻度を示したものである。

表6 日本語のウチ・ソト・ヨソによる差異

	ためらい	理由	結論	情報要求	関係修復	代案	詫び	共感表明	間接表明	条件	遺憾表明	その他	合計
ウチⅠ	88 30.6	68 23.6	89 30.9	14 4.9	9 3.1	6 2.1	1 0.3	3 1.0	4 1.4	2 0.7	2 0.7	2 0.7	288 100%
ウチⅡ	89 31.6	59 20.9	50 17.7	32 11.3	7 2.5	7 2.5	12 4.3	15 5.3	3 1.1	4 1.4	0 0	4 1.4	282 100%
ソト	96 31.9	78 25.9	24 8.0	24 8.0	16 5.3	10 3.3	29 9.6	13 4.3	2 0.7	2 0.7	0 0	7 2.3	301 100%
ヨソ	30 21.0	52 36.4	36 25.2	5 3.5	0 0	2 1.4	12 8.4	3 2.1	3 2.1	0 0	0 0	0 0	143 100%

日本語の大きな特徴は{結論}にある。ウチⅠとヨソに対しては{結論}が多く用いられ、ウチⅡとソトに対してはその使用頻度が大幅に減る。特に、ソトに対してそのような傾向が強い。ウチⅡとソトに対しては{結論}の代わりに{情報要求}{詫び}{共感表明}を積極的に取り入れることによって対人関係を調節している。

ここでは、ウチⅠとヨソに見られる{結論}と{詫び}を取り上げる。ウチⅡ・ソトに比べ、ウチⅠ・ヨソに{結論}が多用されることは共通している。しかし、{詫び}の使用においては2つのカテゴリーの間に大きな違いが見られる。まず、{結論}を示すウチⅠとヨソの例を見てみよう。

(例7) ウチⅠ場面

H: 今から食事に行こうと思うんだけど 一緒に行かない?

1 ⇒ JM13: いいよいいわ. ⇒ {結論}

(例8) ヨソ場面

H: すみません ちょっといいですか?

1 ⇒ JM10: けっこうです。⇒ {結論}

例7のJM13は、ウチⅠに対して「いいいいわ」というように直接的な不可を意味する{結論}を示している。このような断り方はヨソ場面の断り方と類似している。例8のJM10は、ヨソに対して「けっこうです」というような{結論}のみを単独で用いている。このような断り方は場合によっては相手に失礼な印象を与えかねない。しかし、ウチⅠとヨソ場面では{結論}のみの表現も頻繁に見られた。例えば、「いいです」や「けっこうです」というような{結論}のみを示す例はウチⅠで5例、ウチⅡで4例、ヨソで5例、ソト場面ではまったく見られなかった。多くの日本語母語話者は相手との関係を計りながら{結論}のストラテジーを明確に使い分けていることがうかがえる。

次に、{詫び}の使用を見てみよう。ウチⅠにおいては{詫び}がほとんど見られなかったのに対して、ソトとヨソのカテゴリーにおいてはその使用率が増加する。しかしながら、ソトとヨソ場面に見られる{詫び}の使い方は根本的に異なると考えられる。ヨソ場面に見られる「JM02: すみません 忙しいんで…」のような例は相手をはやく断念させるために用いられる1つの方法である。それに対して、ソト場面の「JF03: すみません ちょっと今日は早く家に帰らなければならないんでちょっと今日のところはすみませんが…」という{詫び}は相手との関係維持のために使われる儀礼行為であると考えられる。{詫び}は、婉曲で丁寧な表現でありながら、断りの意思を間接的に訴えることもできる。そのため、2つのカテゴリーでは各々異なる{詫び}の示し方が現れるのであろう。

全体的に見てみると、断りの旨を和らげる意味公式はソトに集中していて、明確な断りを表明するときに有効に働く意味公式はウチⅠとヨソに集中している。日本語の断り表現は、相手がどのカテゴリーに属するかによって、ストラテジー・シフトされる傾向が強いと言えよう。

5.2 韓国語のウチ・ソト・ヨソによる差異

次に、韓国語におけるウチ・ソト・ヨソによる意味公式の使用について見てみる。表7は日本語の場合と同じく、ウチⅠ・ウチⅡ・ソト・ヨソの4つのカテゴリー別に分析した結果である。

表7 韓国語のウチ・ソト・ヨソによる差異

	ためらい	理由	結論	情報	関係修復	代案	詫び	共感表明	間接表明	条件	遺憾表明	その他	合計
ウチⅠ	58 21.6	100 37.2	63 23.4	6 2.2	0 0	18 6.7	3 1.1	7 2.6	3 1.1	2 0.7	1 0.4	8 3.0	269 100%
ウチⅡ	69 22.7	70 23.0	57 18.8	30 9.9	0 0	35 11.5	5 1.6	9 3.0	2 0.7	3 1.0	6 2.0	18 5.9	304 100%
ソト	70 24.6	95 33.5	31 10.9	6 2.1	11 3.9	27 9.5	13 4.6	15 5.3	5 1.8	0 0	4 1.4	7 2.5	284 100%
ヨソ	37 26.4	56 40.0	25 17.9	1 0.7	0 0	7 5.0	7 5.0	2 1.4	0 0	0 0	0 0	5 3.6	140 100%

韓国人のウチ・ソト・ヨソ意識は、日本人の場合ほど明確に意味公式の使用に反映されない。{ためらい} はすべてのカテゴリーで2割以上の使用が見られており、それはヨソ場面で最も高い使用率を占めている。{結論} はウチⅠ・ウチⅡよりヨソ場面の方が少ない。このように、ウチ・ソト・ヨソのカテゴリーによる明確な違いは見られない。しかし、{理由} {関係修復} {代案} {詫び} には、ウチ・ソト・ヨソによる特徴がうかがえる。

まず、{理由} について言うと、これはウチⅡではあまり使われないが、ウチⅠ・ソト・ヨソでは相当な使用率を占めている。日本語に比べ、すべてのカテゴリーにおいて {理由} の使用率が高いのは、任 (2003) でも明らかにしたように、韓国語では {理由} を示す際に有効に使われる「neunde(けど)型中止文」のパターン化と理由を重ねて述べる戦略一が好まれるためであると考えられる。

次に、{関係修復} {代案} について述べる。{関係修復} は「また今度よろしくお願いします」というような、相手にまた機会を作るように委ねる行為である。このような行為はソトを中心に現れており、他のカテゴリ

一ではまったく見られない。ソト関係にある目上の人に対しては相手に委ねる表現を用いることによって、相手の領域侵害を避けていると考えられる。一方、{代案}はすべてのカテゴリーで好まれて使われているが、これは日本語と対照的な韓国語の特徴であると言えよう。

最後に、{詫び}について見てみると、その使用は日本語の場合と同じ傾向にある。{詫び}はウチⅠとウチⅡよりソトとヨソのほうに多用される。次の例を見てみると、いずれも日本語のソト・ヨソ場面に見られる{詫び}のパターンと類似している。

(例9)

ソト場面-KF04: 제가 나중에 배가 고프다 때 연락드릴게요 지금은 제가 어디 좀 가야 되거든요 죄송해요. (私がですね また今度お腹空いているときご連絡します 今はちょっとよるところがありましてですね 申し訳ないです。)

ヨソ場面-KF14: 죄송해요 데입있거든요… (申し訳ないです テープありますけど…)

以上のように両言語の間には、相違点だけではなく類似点も見られる。ウチⅡに対しては{情報要求}を、ソトに対しては{関係修復}{詫び}を多用する傾向は、両言語に共通している。しかし、韓国語の場合は、各々の意味公式の使用にばらつきが見られ、相手によるストラテジー・シフトは明確に現れない。

6 おわりに

日本語と韓国語の断り談話を構成する意味公式を分析し、両言語のストラテジーの異同を比較した結果、次のことが明らかになった。

- (1) 両言語の主要ストラテジーは、{ためらい}{理由}{結論}である。
- (2) 両言語において{詫び}と{理由}を示す言語表現はそれぞれ異なる。

相手に申し訳ない心境を示す際、日本語では定型表現が好まれるが、

韓国語には定形表現から逸脱した表現も多く使われる。また {理由} を示す場合、韓国語には、日本語にはほとんど見られない物語形式が多用される。

- (3) 日本語の場合、1 回目に比べ、2 回目の断りのほうが、{理由} の使用頻度が多くなり、{結論} の使用頻度は少なくなる。一方、韓国語の場合は、それと反対の結果になっている。しかし、両言語ともに、人間関係維持のために必要とされる {代案} {関係修復} {詫び} などの意味公式は 2 回目に断る際に多く見られた。
- (4) 日本語の場合、ウチ・ソト・ヨソを区別する基準となるのは {結論} である。全体的に日本語ではウチ・ソト・ヨソ意識が意味公式の使い分けに反映されるのに対して、韓国語ではそのような意識の反映が日本語ほど顕著ではない。

以上の結果は、意味公式を用いて断り談話の全体構造を探ったものである。断り行為にはその表現を強めたり、弱めたりするための様々なストラテジーが含意されている。同じ表現でも、言い切る文と言いさす文との差や末尾形式の違い、フィラーの挿入などの調節で断り表現の丁寧さは変わる。今後の課題は、これらをも視野に入れた上で、申し出の軽重によるストラテジーの違いや発話の長さとの関係について考察を進めることである。

注

- 1 本稿では、断り言語行動を分析した Beebe ら (1990) の分類と藤森 (1994)、伊藤 (2002) の分類を参考にした。
- 2 名古屋大学国際言語文化研究科で日本語文化を専攻している。
- 3 働きかけの役割を担当した 3 人はロールカードの内容に基づき、基本的なことしか言っていないことを報告しておく。なお、本稿におけるウチ・ソト・ヨソの区別については三宅 (1994: 31) にならう。調査は事前インタビュー→働きかける役割者とインフォーマントとの打ち合わせ→調査実施→フォローアップ・インタビュー

- の手順をとった。詳しい調査内容および文字化方法については任（2002）を参照されたい。
- 4 得られた日本語の総ターン数は394例であり、日本語の総ターン数は385例である。今回の総ターン数には、承諾を表明した場合は含まれていない。
- 5 話者が話を始めてからそれを締めくくるまでの1つの文を1つのターンとみなす。
- 6 任（2002）では、断り談話における「ためらい」は、間が設けられ、断りをやわらげたり、断りを予告するシグナルになる機能があると報告されている。断りの旨を示す前におかれる「ためらい」と発話の間に挿入される「ためらい」との機能は異なると考えられる。この差については今後の課題として残しておきたい。
- 7 泰（2002：70）は感謝表現を取り上げ、日本語では親疎・上下にかかわらず、常に「ありがとう」「すみません」のような定型表現が使用されるが、韓国語では親しい関係の人に対して定型表現以外のストラテジーのみの使用が多くなる傾向があると報告している。
- 8 李（2000：8）は物語について「過去に発生した出来事を雑談の中で報告すること」と定義している。物語の最小単位についてLabov(1972:361)は、「時間の継ぎ目が1回あるいはそれ以上使われた過去の報告である」と言っている。ここで言う物語形式は「過去の出来事を話題にし、さらに現在の状況を詳しく述べて断るストラテジー」とする。
- 9 日本語にも「JM14：うんーえーたぶん 付くと思うんですけど 先生 僕の英語の成績知ってるでしょう」のような表現が1例見られたが、この表現には過去と現在を繋ぐ時間的な連結点がないと考えられ、本稿では物語形式と認めない。韓国語にはこのような表現が8例見られた。
- 10 杏（1993）は、非対立的な論争ストラテジーとして「telling personal experiences（個人の経験話披露）」を取り上げている。それによれば、韓国人は自分の話や相手の話を支持するために「telling personal experiences」を用いる傾向があり、これは話者が聴者を納得させる効果的な方法であると指摘している。
- 11 今回の分析には、承諾を表明した例は考察対象としていない。

参考文献

- 生駒知子・志村明彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー : 「断り」という発話行為について」『日本語教育』79号 日本語教育学会 pp. 41-52.
- 伊藤恵美子 (2002) 「マレー語母語話者の中間言語に見られる語用的特徴—断り表現における普遍性と特殊性—」『ことばの科学』15号 名古屋大学言語文化研究会 pp. 179-195.
- 任炫樹 (2002) 「日韓断り談話における初出あいづちマーカー」『ことばの科学』15号 名古屋大学言語文化研究会 pp. 37-63.
- 任炫樹 (2003) 「日韓断り談話における理由表現マーカー」『平成15年度日本語教育学会第1回研究会予稿集』日本語教育学会 pp. 98-101.
- 金慶燕 (1999) 「言語使用に関する対照社会言語学的研究—日本人・韓国人・韓国人日本語学習者の否定表明を中心に—」大阪大学大学院言語文化研究科博士論文.
- 熊井浩子 (1992) 「留学生にみられる談話行動上の問題点とその背景」『日本語学』第11巻13号 明治書院 pp. 72-80.
- 藤森弘子 (1994) 「日本語学習者にみられるプラグマティック・トランスファー : 「断り」行為の場合」『日本語学・日本語教育論集』1号 名古屋学院大学留学生別科 pp. 1-19.
- 泰秀美 (2002) 「日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察」『日本語教育』114号 日本語教育学会 pp. 70-79.
- 李麗燕 (2000) 『日本語母語話者の雑談における「物語」の研究—会話管理の観点から—』くろしお出版.
- 三宅和子 (1994) 「日本人の言語行動パターン—ウチ・ソト・ヨソ意識—」『日本語教育論集』9号 筑波大学留学生センター pp. 29-39.
- 谷部弘子 (1999) 「『のつけちやうからね』から『申しておりますので』まで」『女性のことば・職場編』ひつじ書房 pp. 139-154.
- Beebe, L. M., Takahashi, T., and Ullsrich-Welts, R. (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals. In R. C. Scarecella, E. S. Anderson, & S. D. Krashen (Eds.), *Developing Communicative Competence in a Second Language*, Newbury House pp. 55-73.
- Labov, W. (1972) *Language in the Inner City*, Philadelphia : University of Pennsylvania Press.
- 송경숙 (2002) 『담화분석-대화 및 토론 분석의 실제』 한국문화사.

(いむ ひよんす)